

各委員から事前にいただいたご意見等について

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

委員名	ご意見等
有馬委員	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>大分県臨床心理士会では、地域における健診・母子健康への参加、または幼稚園、保育園、認定こども園、小学校への巡回相談への参加を通じ、子育てに困難を感じている保護者や家庭への支援を行っている。</p> <p>具体的には、子どもの発達の見立て、保護者の相談、保健師・保育士・医師の方との連携を実施。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『時短』</p> <p>育児休業後の復帰に際し、緩やかな時短（勤務）が設けられると、母体に無理なく、また精神的にも安心して復帰できるのではないかと思われる。また、周囲が妊娠に対して理解するとともに、祝福する雰囲気醸し出せるとよい。様々な立場があり、一律にはできないと思うが、単純に喜び合いたい。</p> <p><b><u>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></b></p> <p>『子育て世代包括支援センター』</p> <p>先進県で既に実施されているシステム。就学前までは、細やかな支援と子どもの情報が共有され、安心して子育てが出来ている地域が多いが、就学とともに、そのネットワークが切れてしまうことを防ぐため、各支援機関が必要に応じて情報を共有したり、成長に必要な物品の貸与・譲渡をするなど、出会いから卒業まで一貫して支援すれば、安心して子育てをすることができるとと思われる。</p>
内田委員	<p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『多様な保育ニーズへの対応ー地域からも応援』</p> <p>人口が今、増加傾向の大分市東部の校区において感じていることです。</p> <p>児童育成クラブや保育園に行ってみますと、延長保育（預かり延長）を希望している家庭がかなりあります。</p> <p>そのニーズを支えるために、職員の方々と協力し、その負担軽減のために、地域からボランティアとして微力ながら見守り応援隊として関わることもできるのではないかと考えています。（2～3時間以内程度）</p>
岡田委員	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>少子化が進み社会全体で子育てに向ける労力は減少しているはずなのに、子育ての現場では子育ての負担感や不安感は減少するどころか増大している感触がある。</p> <p>子育て支援の複合的な取り組みにより、子育ての負担感や不安感を減少させ、</p>

委員名	ご意見等
	<p>出生数の増加や子育てにおける満足度の向上を図ることを目指す必要がある。</p> <p>子育ての支援を考える際には、①子育てに関し大きな問題は感じていないがさらに改善充実を図るべき層、②子育てにおいて問題や不安を感じていて積極的な支援を行うべき層、③明確で特別な支援ニーズがあり、専門的な対応が必要な層、の3つに分けて、それぞれに対する支援施策や連続的支援を検討する必要がある。</p> <p>また、行政施策とそれに連携する地域の取り組みの接続についても十分な配慮が必要である。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>全体の社会システムや風土に関しては、国レベルでの施策や取り組みが必要な部分もあるが、県レベルで可能な事業や取り組みの推進により、子育ても仕事もしやすい大分県というアピールができるような環境の醸成に取り組みたい。</p> <p>ワーク・ライフ・バランスや男性の育児参加、女性や若者の就労支援について共通するのは、問題状況が顕在化した後からでは解決が難しいという点である。</p> <p>そこで、幼少期から継続的・反復的な働きかけを行う中で、あらかじめ意識し取り組みに関わる経験を行うことが重要である（準備教育による軟着陸を目指す）。</p> <p>基本となるのは、自らのライフ・デザインを考え明確化し修正する機会を幼少期から反復的に持てるよう学習機会の整備を図ることである。この際、学校教育と社会教育の連携が必要である。どのような生き方がしたいか、そのためにはどのような就労や家族生活や地域生活が必要かを次期ごとに繰り返し考える機会を整備する必要がある。親子が一緒に学ぶ機会を社会教育の領域で設けていくことも重要である。</p> <p>就労や子育てに関しては、当事者と密接に交流し学ぶ機会の整備が必要である。学校教育の中で乳児・保護者とふれあうプログラムが実施されているが、このような機会をさらに充実させ、生き活きと働いている姿や、両立のため必要な意識や工夫などを学ぶ必要がある。</p> <p><b><u>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></b></p> <p>テーマ②と同様に、幼少期から継続的・反復的な働きかけを行うことで、早い時期から意識し、必要な学びをしておくことが重要と考える。</p> <p>現状の子ども期、青年期においては、結婚や子育てに関してロール・モデルに触れる機会が少ない。結果的に経験したことのない事象に初めて取り組むことが負担感や不安感を増大させている。</p> <p>自分の人生をどのように作っていくか「人生経営戦略」を明確に持てるよう支援を働きかけていく必要がある。</p> <p>その前提として進学や就職だけでなく生活（人生）全般に関してニーズや必要</p>

委員名	ご意見等
	<p>を的確に判断して学びをデザインする「生涯学習経営戦略」も形成できるよう支援を行っていく必要がある。</p> <p>行政事業と地域での取り組みの連携を進め、なるべく広く支援が行えるようにするとともに、特別なニーズに対応する際など専門的な機関との連携も進める必要がある。</p>
<p>賀来委員</p>	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『子育て支援サービスを広く享受できる工夫を』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在は多くの方がスマートフォンから情報を入手しているので、行政の子育て情報を、ホームページはもとより、子育て中の職員や支援者が発信するSNS（ツイッター、インスタグラム、フェイスブック等）を活用して、現代の子育て世代にあった情報を発信していくことが必要だと思います。</li> <li>・ また、私の長男の中学校では、学校の役員活動の一環として、思春期子育て学級に参加しています。自分からは参加の機会をつくれないうちにとっても、子育て世代の方々との交流の場となり、子育て講座などにふれるよいきっかけになるとと思います。</li> </ul> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『経済団体との連携強化』</p> <p>仕事をしながら安心して子育てができるためには、事業主の理解と支援が大変重要になってきます。産休や育児休暇等が遠慮なく取得できる制度や風土づくりを行うためには、大分の経済団体との連携を強化していくことが必要だと思います。</p> <p><b><u>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></b></p> <p>『安心して子育てができる環境を！！』</p> <p>子育て世代が集まる場で、子たくさんの方がいて、「上の子が高校に進学してお金はどんどんかかるので働きたいが、支援の必要な子もいるし、他の子たちも小さくて手がかかるので思うように仕事ができず、かたや子ども手当は中学校までで終わり、経済的に困っている」という切実な声を聞きました。また、小学校までは医療費の補助・無償化を検討してほしいです。</p>

委員名	ご意見等
神田委員	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『地域子育て支援サービスの充実』</p> <p>保育連合会では、保育所から認定こども園へのスムーズな移行を支援するため、5年間の移行特例期間中、県・養成校のご協力の下、幼稚園教諭特例講座を行い(全国唯一)多くの保育士が幼稚園教諭の免許を取得することができました。</p> <p>しかし、この特例期間を過ぎれば取得が厳しくなり、幼保連携型の認定こども園への移行が難しくなります。また、幼稚園教諭の更新講習の受け入れ人数を本年度増やしていただきましたが、まだ足りないのが現状です。</p> <p>5年間の特例期間は国の方針ではありますが、31年度中に適応者の全てが更新できるか危惧しています。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『ワーク・ライフ・バランスの推進』</p> <p>本園において家庭を持つ職員に「仕事と家庭を両立しやすい職場とは？」とアンケートを取ったところ、1位「家族が病気になった時休める(早退できる)」、2位「時間になったら帰れる」、3位「勤務時間を配慮してくれる」、4位「持ち帰りの仕事がない」、他に「親の介護休みをもらえる」、「子どもの行事等で休める」などがありました。</p> <p>職場の人員の問題もありますが、事業主だけでなく職員全体の意識改革も必要だと思います。</p> <p><b><u>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></b></p> <p>『結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進』</p> <p>妊娠、出産、育児に不安を持つ女性が多い中、「ホームスタート」では、同じボランティアが出産、育児までを支援する「産前産後支援」を行っています。</p> <p>ホームスタートは大分県内に12箇所あり、これからも、もっと多くのボランティアを養成し、女性の不安を少しでも無くすように努力していきたいと思えます。</p>

委員名	ご意見等
衣笠委員	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>地域福祉の領域では、現在誰もが安心して暮らすことのできる「地域共生社会づくり」が求められています。そこで必要となるのは、地域の人たちの交流を活性化する、「コミュニティ・エンパワメント」と言われる、ソーシャルワークの方法です。私はこの方法を用いて、中津市、別府市、日出町などで地域づくりに携わってきていますが、「地域における子育ての支援」のためには、お題目だけではなくそれが可能になる「地域づくりの方法」をしっかりと身につけておくことが大切です。具体的に地域づくりを誰がどのようにやり、その結果どのような「共生社会」を目指すのか、方法とビジョンが明確になるような議論を望みます。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>価値観が多様化する中で、子育ても仕事もしやすい環境作りのためには、上述の地域社会とともに、仕事場環境における理解が不可欠になると考えます。従来の「子育ては親がするもの」という考え方だけでなく、「社会全体で子育てに取り組む」という「子育ての社会化」へと価値観をシフトしていくことが必要になると考えます。子どもは、親御さんのものだけではなく、社会みんなの宝です。明日の時代を担っていく若い世代にこそ、この「子育ての社会化」の考え方を基礎として、行政にも社会的な子育てのとりくみの仕組みを具象化してゆく役割が求められると考えます。</p> <p><b><u>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></b></p> <p>地域福祉のとりくみのデータを見ていますと、出産直後のお母さんの地域社会からの「孤立化・孤独化」が大きな課題として上がってくるのが分かります。また、保育園や幼稚園、小学校、中学校で地域や親御さん同士のつながりができて、中学校卒業時にはまたそのつながりが切れてしまい、高齢化に至るまでその状態が続くという「M字曲線」を描くことが良く知られています。</p> <p>こうした状況をさけるためには、先にも述べたように、子育て中の家族が地域社会に「参加」してゆくことが重要です。つながりが切れることなく、地域との関わりを保つことによって、「地縁」を基礎とした切れ目のない支援が求められます。つまり、これら三つの課題は、いずれも「地域社会とどう関わるか、すなわち安心して子育てができるような地域の人々の関わりをどのようにつないでいくか」という、地域福祉とコミュニティ・エンパワメントの命題に行き着きます。そして、その基礎となる「子育ての社会化」への取り組みに向けて、親御さんだけに負担がいかないような、シームレスな子育てのとりくみの仕組みが求められていると考えます。</p>

委員名	ご意見等
佐藤委員	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『誰もが平等に受けられる地域の子育て支援』</p> <p>地域における子育て支援については、うちの子供達も利用させて頂いており本当に助かっています。情報を共有できる保護者はよいのですが、人と関わるのが苦手な方や統合失調症やうつ表情の方々に対する支援法などを教えていただけると参考になります。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『大変な育児も夫婦で！将来の思い出作り』</p> <p>夫の育児参加はとても良い事だと思います。子育てだけでなく、家事の手助けを妻のストレスが少しでも軽減出来るように行い、また、夜泣きの対応など、その時期にしか味わうことが出来ない事を一緒に経験することで、夫婦間の信頼にもつながると思います。</p> <p><b><u>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></b></p> <p>『不安に寄り添う子育て支援』</p> <p>長男が牛乳、卵、小麦の他、多くのアレルギーがあり、授乳中、母乳しか受け付けなかった為、その間、妻は多くの食物除去をして大変でした（15年前）。妊娠中の食生活についての知識と意識が低かった為でもあるので、その時期のアドバイスの窓口が多くあるとよいと思います。</p>
重石委員	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『子どもの居場所づくり』</p> <p>子ども食堂への支援について、県が市町村への補助事業を開始したことで、取り組む団体の増加が見込まれる。しかし、立ち上げに関する費用に限った補助であり、学習支援等の活動を安定させるための運営費補助についても検討してほしい。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『事業主の意識改革』</p> <p>働き方の見直しを行い、仕事と生活を両立できる環境整備や意識改革を促進するため、県では「おおいた子育て応援団（しごと子育てサポート企業）」の認証を行っている。市町村でも、同様の取り組みをすることで、さらなる意識啓発につながるのではないかと考える。市町村を支援する補助制度を設けてはどうか。</p>

委員名	ご意見等
	<p><b>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</b>  『マイノリティーへの支援』  低体重児のための母子手帳作成・発行や双子・三児などの多子の育児をする人への支援について、県がリードして取り組むと市町村が共働しやすい。</p>
富高委員	<p><b>テーマ①「地域における子育ての支援」</b>  『子育ては地域育て』  地域の色々な人が連携し、子育てを応援すること、地域を子どもたちにとっての「宝箱」にしていくことは、住みやすい地域づくり、地域活性化へとつながります。</p> <p><b>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</b>  『子どもの看護休暇の推進』  母として仕事を始めて一番に悩むことは「子どもが病気の時に休みたいけれど休めない」こと。介護休暇のように、子どものための看護休暇が制定される社会を。</p> <p><b>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</b>  『子どもと母親の心の健康が大切』  「ひとりぼっちで生きているのではない」という心をもてる豊かな社会にしていくこと。教育をすすめることが大切。</p>
仲嶺委員	<p><b>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</b>  婚活支援に関しては、数値目標が「出会い・結婚に関する支援を実施している市町村」となっていますが、これまで実施された取組で効果的であったと思われる取組について自治体間で情報交換は行われているのでしょうか。イベント参加を躊躇される方もおられると思いますので、参加率アップにつながった取組の情報交換を活発化することで、出会いの機会提供の充実を図ることができるのではないかと思います。</p>
松田委員	<p><b>テーマ①「地域における子育ての支援」</b>  『子育ての環境づくり、地域をまきこんでもっと細やかに』  団地の公園から固定遊具が撤去されることになった。市の管理から自治会の管理へと変更されることで、維持管理するには費用の負担金額、万がいち、怪我をしたときの保障、責任の問題が浮上し、話し合いの結果、撤去が決定。  これでは、地域で子育て、若者の定住は厳しい。  公園は、まもなくブランコもない広場になる。せめて負担の分担、責任の分担案はないのでしょうか。</p>



委員名	ご意見等
	<p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『人材不足』</p> <p>人材不足は、どこの企業も深刻で、子育て中の仕事につきものの、“子どもの急な発熱”、“学校行事”で休みをとりたくても気をつかう。企業側は、休みをあげたくても仕事が回らない。</p> <p>福祉の現場でゆとりのない支援は、利用者側にも深刻な影響を与える。</p> <p>人材不足解決案がほしい。</p> <p>職場内託児を利用しているが、ここにも人材が必要。</p> <p><b><u>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></b></p> <p>『高齢化社会と一体化してはどうでしょう』</p> <p>昔、切れ目ない支援を育てて支えていたのは、“おばあちゃん”の存在だったと思う。</p> <p>高齢化社会で、介護予防教室が地域で開催されているが、ここのタイアップが実現しないものかと思う。</p> <p>妊婦になったら、母親教室（マタニティー）も介護予防教室の隣で行う。0歳児健診も。入学説明会や修学前健診も。共生していることや成長の喜びも共に感じる。そんなコミュニティが必要かと思う。</p> <p>小規模多機能型居宅介護施設で子ども食堂始めました。</p>
三上委員	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『放課後児童クラブ・サービスの情報提供について』</p> <p>県が本年度、放課後児童クラブの充実に力を入れると聞き、親としてありがたい。共働き家庭で、保育所を卒園し小学校入学と同時にとても苦勞する方の話をよく耳にするので、クラブ数を増やすことはもちろん、内容も充実させ、クラブ間の差もないようにしていただけるとより安心できる。預け先があるという物理的な便利さだけでなく、親でも学校の教師でもない第三者の目があることは親にも子にも安心できること。</p> <p>さまざまな子育て支援サービスがあっても、どんな支援があるのか知らない、いざ困ったときにどこに電話すればいいのかすぐ分からない人は多いのでは。「子育てのタネ」にアクセスしたが、ほしい情報になかなか手が届かなかった。スマホで検索しやすく、大分県版の「なあな」※大分市子育て支援サイト naana のような見やすいサイトを作ってほしい。新聞社としても発信はしたいが、情報提供にも力を入れていただきたい。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『男性の長期労働の是正』</p>

委員名	ご意見等
	<p>子育て中の女性の労働環境は、改善されてきていると感じる。子育てが理由となると不利益な扱いをできない風潮が出てきている。そのしわ寄せもあるのか、男性は相変わらず長期労働が当然。上司らの子育てへの理解はありがたい反面、男性は制限時間を考えず思う存分働けてうらやましいとも思う。母親自身も、「家庭や子育ては女が中心」「ママはこうあるべき」という“常識”に縛られている。保育所の充実なども重要だが、両親で子育てが当たり前になるように、働き方改革を進めてもらいたい。</p> <p><b>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</b></p> <p>子育てと仕事の両立に四苦八苦している先輩女性を見ていたら、若い女性が自分もと思いきいのか。縁やタイミングが重要な課題に他人が、ましてや行政が立ち入るのはなかなか難しいが、先輩たちが、パートナーの愚痴をほどほどにして、精神的にも物理的にも経済的にもある程度の余裕を持って楽しく子育てしている姿を見せることが一番効果的のように思う。そんな風に生活するためにも、働き方改革は急務。夫が家事や子育てに協力的でないと、欲しくても2人目3人目の子どもはあきらめている人が多い。</p>
幸野委員	<p><b>テーマ①「地域における子育ての支援」</b></p> <p>放課後児童育成クラブは、共働き家庭にとってはとても安心できる支援施設です。私の娘も放課後は育成クラブにお世話になっています。</p> <p>先日ある方から聞いた話です。</p> <p>習い事をしているお子さんは、育成クラブから習い事に通うことがあります。例えば水泳教室に通わせているお子さんは、水泳教室のバスが育成クラブの近くに迎えに来ます。低学年のお子さんはまだ時計が読めないため、バスの時間がわかりません。また、バス停までの道のり（育成クラブの目の前に停車するそうです）も「危険があるのでは？」と保護者の方が心配することが多々あるそうです。その方は育成の先生に、「バスの時間になったら子供に声をかけてほしい」、「バス停までいっしょに行ってほしい」と先生に相談したところ、「そこまで対応はできません」と断られたとのこと。</p> <p>また、習い事が終わった後に育成クラブに戻ることもできないと聞きました。その保護者の方が納得いかないのは、他の育成クラブではしっかりと習い事についてもサポートしてくれているところがあるからだと言っていました。</p> <p>私自身、各々の育成クラブで対応が異なるというのは疑問に感じますし、このような保護者の意見や希望を一括して取りまとめる窓口があってもいいのではないのでしょうか。</p> <p>（もしかして私が知らないだけで、すでに窓口があるのならすみません。）</p> <p>現場の先生たちがひとりひとりのお子さんのケアをするのはとても大変なこ</p>

委員名	ご意見等
	<p>とは理解していますが、少しでも保護者のみなさんが安心して自分の子どもを預けられるような、そんな育成クラブにしてほしいと思います。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>大分県の男性の家事育児参加率は数年前の全国下位から飛躍的にアップし、現在では全国でトップクラスの参加率となっています。特に若い世代の父親の家事育児参加に対する意識はかなり高くなっていると私自身実感しています。</p> <p>昨年度も、『パパの子育て応援セミナー』と題して夫婦間のパートナーシップ講座を県主催で開催して頂き、多くの子育て中のパパ、ママの参加がありました。今年度も引き続きこのような取り組みを行って頂きたいと思います。</p> <p>男性の家事育児参加に対する意識が高くなっている反面、仕事と家庭の両立に悩んでいる父親も増えています。「早く帰宅して家事育児をしたい。」と思っても、職場の理解がない、あるいは仕事が忙しすぎて帰宅できない。近年ではこのジレンマにより鬱症状になる父親も増えています。</p> <p>男性も女性も同じように働き、子育てもできる環境、いわゆるワークライフバランスの推進を社会全体でもっと取り組んでいく必要があると考えます。大分県が男性の家事育児参加率上位を維持していくなら、大分県の企業（中小零細も含め）のワークライフバランス推進率も全国トップクラスを目指して力を入れて頂きたいと思います。</p>
吉岩委員	<p><b><u>テーマ①「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『広報啓発』</p> <p>子育てで悩むことがあり、相談する場所が増えているのは嬉しい限りである。しかし、地域にあっても対象者がそれを知らないままということもあるので、民生委員や社協等、地域で住民と関わる機会の多い専門職がその現状を把握し、つなぐということが、基礎的ではあるが、まだまだ求められていると感じる。</p> <p><b><u>テーマ②「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></b></p> <p>『ワーク・ライフ・バランス』</p> <p>共働きでの配慮という部分も少しずつ増えていると思うが、シフト業務となると、なかなか急変時に対応しにくい面はあると思う。</p> <p><b><u>テーマ③「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></b></p> <p>『子育て包括支援センター』</p> <p>児童福祉法の改正で「子育て包括支援センター」の設置の話が出てきたが、今後の大分県での推進が気になるころではある。今すでに支援をしている関係団体との連携もしやすくなるのでは。</p>